

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-179903

(P2020-179903A)

(43) 公開日 令和2年11月5日(2020.11.5)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 25/20 (2006.01)	B 6 5 D 25/20	E 3 E 0 6 2
B 6 5 D 81/38 (2006.01)	B 6 5 D 81/38	E 3 E 0 6 7
B 6 5 D 75/54 (2006.01)	B 6 5 D 75/54	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2019-85288 (P2019-85288)	(71) 出願人	000006909
(22) 出願日	平成31年4月26日 (2019. 4. 26)		株式会社吉野工業所
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
		(74) 代理人	100113169
			弁理士 今岡 憲
		(72) 発明者	上村 英夫
			大阪府茨木市宇野辺 1 丁目 6 番 9 号 株式
			会社吉野工業所 大阪工場内
		F ターム (参考)	3E062 AA09 AB01 AC02 BA01 BB06
			BB09 KA04 KA10 KB17 KC01
			3E067 BA01B BA01C BB14B BB14C BC03B
			BC03C BC07C EB27 EE23 FA04
			FC01

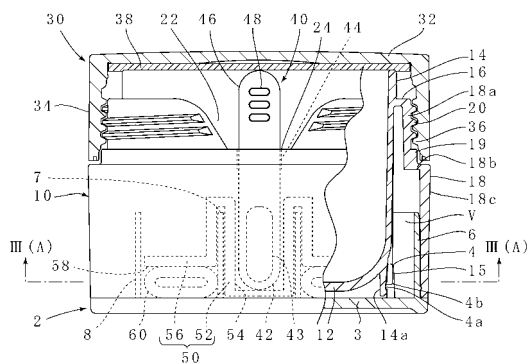
(54) 【発明の名称】 スパチュラ付き容器

(57) 【要約】

【課題】 容器本体からスパチュラを取り外すことが容易なスパチュラ付き容器を提供する。

【解決手段】 有底かつ上面開口の内筒部 1 4 と、この内筒部 1 4 の周囲に支承され、内筒部 1 4 との間に環状空間 V を形成する外筒部 1 8 とを有する容器本体 1 0 と、天板 3 2 から垂設された蓋周壁 3 4 を前記外筒部 1 8 に嵌合させたキャップ 3 0 と、前記内筒部 1 4 の外面に沿って上方引き出し可能に配置された縦長のスパチュラ 4 0 と、前記環状空間 V 内に組み付けられ、前記スパチュラ 4 0 を前記キャップ 3 0 との間に上方付勢状態で挟持させて支える受け部材 5 0 とを具備する。そして前記外筒部 1 8 から前記キャップ 3 0 を外したときに、前記受け部材 5 0 が前記スパチュラ 4 0 を押し上げ、前記スパチュラ 4 0 の上部が前記容器本体 1 0 より上方へ突き出されるように構成されている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有底かつ上面開口の内筒部(14)と、この内筒部(14)の周囲に支承され、内筒部(14)との間に環状空間(V)を形成する外筒部(18)とを有する容器本体(10)と、

天板(32)から垂設された蓋周壁(34)を前記外筒部(18)に嵌合させたキャップ(30)と、

前記内筒部(14)の外面に沿って上方引き出し可能に配置された縦長のスパチュラ(40)と、

前記環状空間(V)内に組み付けられ、前記スパチュラ(40)を前記キャップ(30)との間に上方付勢状態で挟持させて支える受け部材(50)とを具備し、

前記外筒部(18)から前記キャップ(30)を外したときに、前記受け部材(50)が前記スパチュラ(40)を押し上げ、前記スパチュラ(40)の上部が前記容器本体(10)より上方へ突き出されるように構成したことを特徴とするスパチュラ付き容器。

【請求項 2】

前記受け部材(50)を、前記スパチュラ(40)を縦向きに支える保持用凹部(54)を備えた受け部(52)と、この受け部(52)の両側から下方へ突出した一对の脚部(56)とで形成し、

この脚部(56)の下端部(58)を支持する底板(3)を備えたことを特徴とする、請求項 1 に記載のスパチュラ付き容器。

【請求項 3】

前記受け部(52)を、前記内筒部(14)の径方向から見て略 U 字形の枠体に、また前記脚部(56)を前記略 U 字形の枠体から周方向の外下方へ突出する脚片にそれぞれ形成し、かつこれら枠体及び脚片を内筒部(14)の外面に沿った構造としたことを特徴とする、請求項 2 に記載のスパチュラ付き容器。

【請求項 4】

前記環状空間(V)の周方向の一部には、この環状空間(V)を画成する前記内筒部(14)と外筒部(18)と底板(3)とのうちの何れか一つと連設させて、一对の垂直なガイド板(7)が形成されており、これらガイド板(7)の間で前記受け部(52)が縦方向へ摺動するように構成したことを特徴とする、請求項 2 又は請求項 3 に記載のスパチュラ付き容器。

【請求項 5】

前記脚部(56)の下端部(58)と前記底板(3)との間に上方付勢手段である弾性部材(60)を配置したことを特徴とする、請求項 2 から請求項 4 のいずれかに記載のスパチュラ付き容器。

【請求項 6】

前記脚部(56)を上方付勢手段である板バネに形成したことを特徴とする、請求項 2 から請求項 4 のいずれかに記載のスパチュラ付き容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、スパチュラ付き容器に関する。

【背景技術】

【0002】

広口の筒周壁を有する容器本体と、前記筒周壁の上部外面に螺合された有頂筒状のキャップとを具備し、このキャップの下側で、前記筒周壁の外面から当該キャップより大径の鰐部を介して補助周壁を垂下させるとともに、前記キャップより外側の鰐部分に挿通孔を開口してなり、この挿通孔に対して、上方へ掬い部を向けたスパチュラの柄部を嵌挿させて、スパチュラを嵌着させたものが知られている(特許文献 1)。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2000-326985

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1の容器では、掬い部を上にしたスパチュラの柄部を前記鏝部の挿通孔内へ挿入しており、スパチュラを取り出すときに、前記掬い部を指で摘まんで引き上げると、指の汚れが掬い部に付着してしまうという問題点があった。

10

この問題点に対して、例えば柄部の寸法を長くして、この柄部を挿通孔へ挿入させたときに前記鏝部の上側に柄部の上部を位置させ、この上部を把持部として引きあげることが可能とすることも考えられる。しかしながら、この構成でも、把持部と前記筒周壁とが接近し過ぎて把持し難く、取り出しが難しいという不都合が残る。

【0005】

本発明の目的は、容器本体からスパチュラを取り外すことが容易なスパチュラ付き容器を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

第1の手段は、有底かつ上面開口の内筒部14と、この内筒部14の周囲に支承され、内筒部14との間に環状空間Vを形成する外筒部18とを有する容器本体10と、

20

天板32から垂設された蓋周壁34を前記外筒部18に嵌合させたキャップ30と、

前記内筒部14の外面に沿って上方引き出し可能に配置された縦長のスパチュラ40と

、前記環状空間V内に組み付けられ、前記スパチュラ40を前記キャップ30との間に上方付勢状態で挟持させて支える受け部材50とを具備し、

前記外筒部18から前記キャップ30を外したときに、前記受け部材50が前記スパチュラ40を押し上げ、前記スパチュラ40の上部が前記容器本体10より上方へ突き出されるように構成した。

【0007】

30

本手段では、図1又は図7に示す容器本体10の内筒部14及び外筒部18の間に形成された環状空間V内に、受け部材50を組み付けている。

この受け部材50は、前記内筒部14の外面に沿って配置した縦長のスパチュラ40を上方付勢状態でキャップ30との間に挟持させて支えている。この構成によれば、図6に示す如く、前記キャップ30を外すことにより、スパチュラ40の上部を容器本体10より上方へ突き出させることができる。従ってこのスパチュラ40を把持し易い。

【0008】

第2の手段は、第1の手段を有し、かつ前記受け部材50を、前記スパチュラ40を縦向きに支える保持用凹部54を備えた受け部52と、この受け部52の両側から下方へ突出した一对の脚部56とで形成し、

40

この脚部56の下端部58を支持する底板3を備えた。

【0009】

本手段では、図1又は図7に示す如く、前記受け部材50は、前記スパチュラ40を縦向きに支える保持用凹部54を有する受け部52と、この受け部52の両側から下方へ突出した一对の脚部56とで形成されている。従って、前記保持用凹部により、前記スパチュラ40の向きを適切に維持することができ、スパチュラ40が不意に傾くなどの不都合を生じないので、把持し易い。

なお、前記脚部56の下端部58は底板3により支持されている。図5に示す如く脚部56と底板3との間に他部材（弾性部材）を介して支持していてもよい。

【0010】

50

第 3 の手段は、第 2 の手段を有し、かつ前記受け部 5 2 を、前記内筒部 1 4 の径方向から見て略 U 字形の枠体に、また前記脚部 5 6 を前記略 U 字形の枠体から周方向の外下方へ突出する脚片にそれぞれ形成し、かつこれら枠体及び脚片を内筒部 1 4 の外面に沿った構造とした。

【0011】

本手段では、図 5 (A) 又は図 8 (A) に示す如く、前記受け部 5 2 を、前記内筒部 1 4 の径方向から見て略 U 字形の枠体に、また前記脚部 5 6 を前記略 U 字形の枠体から周方向の外下方へ突出する脚片にそれぞれ形成した。

またこれら枠体及び脚片を、図 3 (B) に示すように、内筒部 1 4 の外面に沿った構造としている。

この構成によれば、前記受け部材 5 0 を、前記環状空間 V 内に収納するのに適しており、かつ簡易な構造とすることができる。

【0012】

第 4 の手段は、第 2 の手段又は第 3 の手段を有し、かつ前記環状空間 V の周方向の一部には、この環状空間 V を画成する前記内筒部 1 4 と外筒部 1 8 と底板 3 とのうちの何れか一つと連設させて、一对の垂直なガイド板 7 が形成されており、これらガイド板 7 の間で前記受け部 5 2 が縦方向へ摺動するように構成した。

【0013】

本手段では、図 1 又は図 7 に示す如く、前記環状空間 V 内に、前記受け部 5 2 を縦方向に案内する一对のガイド板 7 を形成している。この構成によれば、前記受け部 5 2 の昇降を円滑にすることができる。

これらガイド板 7 は、前記内筒部 1 4 と外筒部 1 8 と底板 3 とのうちの何れか一つと連設させればよい。

【0014】

第 5 の手段は、第 2 の手段から第 4 の手段のいずれかを有し、かつ前記脚部 5 6 の下端部 5 8 と前記底板 3 との間に上方付勢手段である弾性部材 6 0 を配置した。

【0015】

本手段では、図 1 に示す如く、前記受け部材 5 0 の脚部 5 6 の下端部 5 8 と前記底板 3 との間に上方付勢手段である弾性部材 6 0 を配置している。

前記受け部材 5 0 とは別個に弾性部材 6 0 を設けており、この弾性部材 6 0 の材質や寸法を選択することにより、所要の弾性力を実現することができる。

【0016】

第 6 の手段は、第 2 の手段から第 4 の手段の手段を有し、かつ前記脚部 5 6 を上方付勢手段である板バネに形成した。

【0017】

本手段では、図 7 に示す如く、前記受け部材 5 0 の脚部 5 6 を上方付勢手段である板バネに形成している。

前記受け部材 5 0 の一部として、上方付勢手段を形成したから、パーツ数が増えることなく、組み立て作業も容易である。

【発明の効果】

【0018】

第 1 の手段に係る発明によれば、容器本体 1 0 の内筒部 1 4 及び外筒部 1 8 の間に形成された環状空間 V 内に、受け部材 5 0 を組み付け、この受け部材 5 0 により、前記内筒部 1 4 の外面に沿って配置した縦長のスパチュラ 4 0 を、上方付勢状態でキャップ 3 0 との間に挟持させて支えるから、キャップ 3 0 を外すことにより、スパチュラ 4 0 の上部が容器本体 1 0 より上方へ突き出するから、把持し易い。

第 2 の手段に係る発明によれば、前記受け部材 5 0 は、前記スパチュラ 4 0 を縦向きに支える保持用凹部 5 4 を有する受け部 5 2 の両側から一对の脚部 5 6 を下方へ突出したから、前記スパチュラ 4 0 の向きを適切に維持され、把持し易い。

第 3 の手段に係る発明によれば、前記受け部 5 2 を略 U 字形の枠体とし、また前記脚部

10

20

30

40

50

56を、前記枠体から周方向の外下方へ突出する脚片としており、これら枠体及び脚片が内筒部14の外面に沿っているから、前記環状空間への収納に適している。

第4の手段に係る発明によれば、前記内筒部14の外面又は外筒部18の内面に一对のガイド板7を縦設したから、前記受け部52の昇降を円滑にすることができる。

第5の手段に係る発明によれば、前記脚部56の下端部58と前記底板3との間に上方付勢手段である弾性部材60を配置したから、この弾性部材60の材質や寸法を選択することにより所要の弾性力を実現でき、設計上の自由度が大きい。

第6の手段に係る発明によれば、前記受け部材50の脚部56を上方付勢手段である板バネに形成したから、パーツ数が増えることがなく、組み立て作業も容易である。

【図面の簡単な説明】

10

【0019】

【図1】本発明の第1実施形態に係るスパチュラ付き容器の正面方向の断面図である。

【図2】図1の容器からキャップを外した状態での平面図である。

【図3】図1の容器を上方から見た構造を示しており、同図(A)は図1のIII(A)-III(A)方向から見た容器全体の断面図、同図(B)は、容器の主要部材(受け部材)の平面図である。

【図4】図1の容器を側方から見た一部断面図である。

【図5】図1の容器の主要部の構成の概要を示す図であり、同図(A)は前記主要部の正面形状を、同図(B)は、同図(A)のV(B)-V(B)方向から見た形態を、同図(C)は、同図(A)のV(C)-V(C)方向から見た形態を、それぞれ示している。

20

【図6】図1の容器からキャップを外したときの作用の説明図である。

【図7】本発明の第2実施形態に係るスパチュラ付き容器の正面方向の断面図である。

【図8】図7の容器を示しており、同図(A)は、図7の容器からキャップを外したときの作用の説明図、同図(B)は、図7の容器の主要部を側方から見た図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

図1から図6は、本発明の第1実施形態に係るスパチュラ付き容器を示している。この容器は、底蓋2と、容器本体10と、キャップ30と、スパチュラ40と、受け部材50と、弾性部材60とで形成されている。これらの構造は適宜変更することができる。これら各部材は、例えば合成樹脂材で形成することができる。

30

【0021】

底蓋2は、図1に示す如く、底板3の外周部から背の低い内周壁部4と背の高い外周壁部6とを起立している。もっとも両周壁部の一方を省略してもよい。

前記内周壁部4は、後述の内筒部14の下端部14aと連結されており、その内面には、抜け止め用リブ4aを周設している。また、この抜け止め用リブ4aの上側に位置させて、内周壁部4の周方向の一部に、図3(A)に示す切り欠き4bが形成されている。

また前記外周壁部6は、後述の外筒部18と連結されている。

【0022】

これら外筒部18と内筒部14と底板3とで環状空間Vが形成されている。この環状空間Vは、後述のスパチュラ40の下半部及び受け部材50を収納するための空間である。

40

なお、本明細書においては、図2の下側を“前”と、同図の上側を“後”と、同図の左右方向を“右”及び“左”と、それぞれ称するものとする。

【0023】

前記環状空間Vの周方向の一部(図示例では前部)には、前記外筒部18と内筒部14と底板3との何れか一つと連設されて、一对の垂直なガイド板7が形成されている。この説明は、後述の仕切り板に援用するものとする。なお、本明細書において、“連設”とは、直接的に連結する場合に限らないものとする。

図示例では、図3(A)に示すように、前記底板3に下端を連設させた一对の垂直なガイド板7を、前記外周壁部6から内方突設している。

もっともこの構造は適宜変更することができる。例えば後述の内筒部14から一对のガ

50

イド板 7 を外方突出してもよい。また外周壁部 6 を省略して前記外筒部 18 からガイド板 7 を内方突出しても構わない。

前記一对のガイド板 7 は、後述の受け部 52 の縦方向の移動を案内する機能を有する。

これら一对のガイド板 7 は、図 6 に示す如く、一定の距離 M をおいて相互に向かい合っている。ガイド板同士の間距離 M は、受け部 52 の周方向の巾 W と同じであるか、或いは当該巾よりもアローアンス（摺動余裕）の分だけ大きいものとする。

【0024】

前記一对のガイド板 7 の周方向外側には、図 3 (A) に示す如く、一对の仕切り板 8 が設けられている。これら仕切り板 8 は、本実施形態において、後述の弾性部材 60 が配置される領域を仕切る役割を有する。これに関しては後述する。

前記ガイド板 7 と前記仕切り板 8 との間距離 N は、図 5 に示す如く、縦方向に圧縮された状態での弾性部材 60 の横幅以上とする。

【0025】

容器本体 10 は、有底で上端開口の内筒部 14 及び外筒部 18 を有する。

前記内筒部 14 は、その下面を底壁部 12 で閉塞されている。図示例では、前記底壁部 12 の外周部を外側に向かうに従って緩やかに隆起させて、この外周部から内筒部 14 を立設している。

また前記内筒部 14 の下端部は、前記底壁部 12 より下方へ延設して脚筒部 14a としている。この脚筒部 14a は、前記内周壁部 4 の内面に嵌合されている。

前記脚筒部 14a の外面からは、図 3 (A) に示すように、前記切り欠き 5b の両端に係止する一对の係合突起 15 が突設されている。

【0026】

前記外筒部 18 は、前記内筒部 14 の周囲に前記環状空間 V を形成するための境界壁という役割を有する。この外筒部 18 は、図 1 に示すように、前記内筒部 14 に対して、支承片（フランジ状壁部）16 を介して前記内筒部 14 の周囲に 2 重筒状に支承されている。

図示例では、前記外筒部 18 は、前記内筒部 14 の上部外面から前記フランジ状壁部 16 を介して前記内筒部 14 の下端部付近まで垂下されている。しかしながら、前述の役割を果たすことができれば、前記外筒部 18 の構造は適宜変更することができる。

図示例では、前記フランジ状壁部 16 で前記環状空間 V の上面を覆うことで、この空間内に塵埃が入りにくいなどの利点がある。

図示例の外筒部 18 は、図 1 に示す如く、小径の上方筒部 18a の下端から拡張部 18b を介して下方筒部 18c を延出させている。前記上方筒部 18a の下端部は、図 5 (C) に示す如く、肉厚部 19 に形成されている。また前記下方筒部 18c は、前記外周壁部 6 の外面に嵌合されている。

前記上方筒部 18a の外面には、雄ネジ部 20 が形成されており、後述の蓋周壁 34 が螺合されている。

図示例では、前記外筒部 18 の前部に、後述のスパチュラ 40 の上部を収納させるための収納凹部 22 が形成されている。この収納凹部 22 は、前記フランジ状壁部 16 の前部を前記上方筒部 18a の対応箇所とともに陥没させて、前記雄ネジ部 20 の周方向の一部を縦断するように設ける。

この収納凹部 22 内で、前記フランジ状壁部 16 には、図 2 に示す如く、前記スパチュラ 40 を挿通させるために、周方向に長いスリット状の挿通孔 24 が開口されている。

なお、図示例では、前記フランジ状壁部 16 は、前記拡張部 18b の高さまで陥没しており、この拡張部 18b に連続している。

図示の収納凹部 22 は、図 1 に示す如く、前方から見て下端側が幅狭の逆台形状に形成されている。

【0027】

キャップ 30 は、図 1 に示す如く、天板 32 の外周から蓋周壁 34 を垂設させている。この蓋周壁 34 の内面には、前記雄ネジ部 20 とかみ合う雌ネジ部 36 を形成している。

また前記天板 3 2 の裏面にはパッキン 3 8 が取り付けられている。

【0028】

スパチュラ 4 0 は、図 1 に示す如く、上側に把持部 4 6 を、また下側に掬い部である内容物取出し部 4 2 をそれぞれ有する。この内容物取出し部には凹み 4 3 が形成されている。

そして把持部 4 6 と内容物取出し部 4 2 との間の中間部 4 4 を、前記挿通孔 2 4 内に縦方向のスライド可能に嵌挿させている。

前記把持部 4 6 には、指掛けである複数の横溝 4 8 が形成されている。図示例では、図 5 (B) に示すように、前記スパチュラ 4 0 の表裏両面に前述の凹み 4 3 及び横溝 4 8 を形成している。

10

【0029】

受け部材 5 0 は、前記環状空間 V 内に組み付けられている。

この受け部材 5 0 は、前記スパチュラ 4 0 を前記キャップ 3 0 との間に上方付勢状態で挟持させて支えるための部材である。

もっとも本実施形態において、前記上方付勢状態は、後述の弾性部材 6 0 により実現される特性であり、受け部材 5 0 自体が上方付勢力を有するものではない。

前記受け部材 5 0 は、図 1 に示す如く、受け部 5 2 と一対の脚部 5 6 とで形成している。

前記受け部 5 2 は、前記スパチュラ 4 0 を縦向きに支える保持用凹部 5 4 を有する。

また一対の脚部 5 6 は、前記受け部 5 2 の両側から周方向外下方へ突出している。

20

本実施形態では、前記受け部 5 2 を、図 5 (A) に示す如く、前記内筒部 1 4 の径方向から見て略 U 字形の枠体に、また前記脚部 5 6 を、前記略 U 字形の枠体から周方向の外下方へ突出する、任意の棒状（図示例では L 字棒状）の脚片に形成している。

これらの枠体 5 2 及び脚片 5 6 は、図 3 (B) に想像線で示す内筒部 1 4 の外周面及び外周壁部 6 の内周面に沿った形状に形成されている。このように周面に沿った枠構造を採用することにより、受け部材 5 0 を、前記環状空間 V 内への収納に適した、簡易で無駄のない構成とすることができる。

【0030】

前記枠体 5 2 は、図示例において、一本の横枠部 5 2 a の両端に同じ長さの一対の縦枠部 5 2 b の下端を連結させた構造であり、これら両縦枠部 5 2 b の間に前記保持用凹部 5 4 が形成されている。

30

好適な図示例において、図 3 (B) に示すように、前記横枠部 5 2 a 及び縦枠部 5 2 b の厚み D f は、前記スパチュラの厚み D s より大きく設け、前記横枠部 5 2 a の上面で前記スパチュラ 4 0 の下端を確実に支えることができるように設ける。

この保持用凹部 5 4 は上面及び内外方向（内筒部 1 4 の筒径方向）に開放されている。しかしながら、前記枠体 5 2 の内側には前記内筒部 1 4 の外面が、また枠体 5 2 の外側には前記外周壁部 6 の内面が近接しているため、前記スパチュラ 4 0 を縦向きに保持するという機能を果たすことに支障を生じることはない。

【0031】

前記脚片 5 6 は、本実施形態では、図 5 に示す如く、L 字形に形成されている。具体的には、前記脚片 5 6 は、前記縦枠部 5 2 b の上端から間隙 g を存して周方向外下方へ折り返した垂直バー 5 6 b と、この垂直バー 5 6 b の下端から周方向外方へ水平に延びる水平バー 5 6 a とで形成されている。図示例では、垂直バー 5 6 b 及び水平バー 5 6 a の厚みは、前記垂直バー 5 6 b 及び水平バー 5 6 a の厚み D f と同じに形成している。

40

前記水平バー 5 6 a の下面で形成する下端部 5 8 が後述の弾性部材 6 0 に当接されている。

前記間隙 g は、前記枠体 5 2 及び各脚片 5 6 の間にそれぞれ形成され、これら間隙 g 内に下方から、前記一対のガイド板 7 が挿入されている。

また一対の水平バー 5 6 a の周方向外側には、一対の前記仕切り板 8 がそれぞれ近接して配置されている。

50

【0032】

弾性部材60は、前記ガイド板7と仕切り板8との間にそれぞれ配置されている。

図示例の弾性部材60は、図6に示す初期状態において、円形の弾性リングとして形成されている。もっともこの形状は適宜変更することができる。

同図に示す左右一对の弾性部材の形状・構造・弾性力は同じであることが望ましい。

前記弾性部材60の寸法は、図6に示す開蓋状態において、前記受け部材50によって支持されたスパチュラ40の上部が前記容器本体10の上端より高く位置するように設計する。

【0033】

前記構成において、図6の開蓋状態から、前記キャップ30を前記外筒部18に対して螺下降させていくと、前記天板32が前記スパチュラ40の上端を押圧し、前記弾性部材60の弾性力に抗して、スパチュラ40及び受け部材50が下降し、図1の状態となる。

前記スパチュラ40を使用するときには、前記キャップ30を開方向へ回転させ、螺上昇させる。そうすると、前記弾性部材60の弾性復元力により、前記受け部材50及び前記スパチュラ40が上昇する。前記キャップ30を前記外筒部18から取り外した段階では、前記把持部46が容器本体10の上端より上方へ突出している。従ってこの把持部46を把持して、前記スパチュラ40の内容物取出し部42を前記挿通孔24から引き出せばよい。

【0034】

以下、本発明の他の実施形態に係るスパチュラ付き容器を説明する。これらの説明において第1実施形態と同じ構成に関しては解説を省略する。

【0035】

図7及び図8は、本発明の第2実施形態に係るスパチュラ付き容器を示している。本実施形態では、第1実施形態の弾性部材60を省略して、弾性部材の代わりに、前記受け部材50の脚部56を板バネに形成したものである。

図8に示す開蓋状態において、前記板バネは、前記一对の縦枠部52bの上端から、周方向の外側へほぼ水平に突出した後、下向きへ屈曲する屈曲板部に形成されている。

同図に示す左右一对の板バネは左右対称であり、等しい弾性力を有する。

前記板バネ56の下端部58は、前記底板3にスライド可能に当接されている。

なお、本実施形態では、前記仕切り板8は、図7に示す畜力状態（変形状態）で、前記板バネ56の下端部58のスライドを規制する役割を有する。

こうすることで、図7の状態では板バネ56の下端部58が広がり過ぎることを防止し、十分な弾性復元力を発揮できる状態を実現することができる。

もっともこれらの構造は適宜変更することができる。

【符号の説明】

【0036】

2…底蓋 3…底板 4…内周壁部 4a…抜止め用リブ

4b…切り欠き 6…外周壁部 7…ガイド板 8…仕切り板

10…容器本体 12…底壁部 14…内筒部 14a…脚筒部

15…係合突起 16…支承片（フランジ状壁部）

18…外筒部 18a…上方筒部 18b…拡張部 18c…下方筒部

19…肉厚部

20…雄ネジ部 22…収納凹部 24…挿通孔

30…キャップ 32…天板 34…蓋周壁 36…雌ネジ部 38…パッキン

40…スパチュラ 42…内容物取出し部 43…凹み 44…中間部

46…把持部 48…指掛け（横溝）

50…受け部材 52…受け部（枠体） 52a…横枠部 52b…縦枠部

54…保持用凹部 56…脚部（脚片） 56a…水平バー 56b…垂直バー

58…下端部 60…弾性部材

10

20

30

40

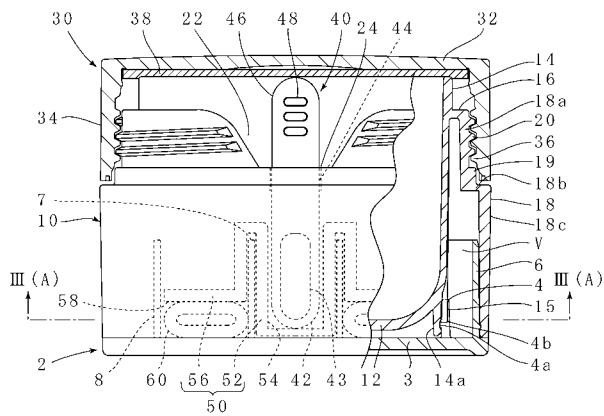
50

D f … 枠体及び脚片の中 D s … スパチュラの中

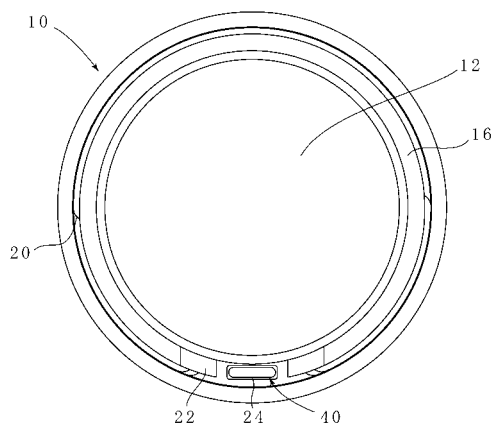
g … 間隙 M … ガイド板同士の距離 N … ガイド板と仕切り板との距離

V … 環状空間 W … 受け部材の幅

【図 1】



【図 2】



【図 3】

